歴史B
(History B)

担当教員
非常勤講師　鈴木 栄樹

科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等
人と文化	2年次 前期	講義	1.5単位	選択

【概要】
テーマ≪感染症（伝染病）流行と近代日本の衛生行政の展開≫
江戸時代後半の19世紀初め（1822年）、日本は史上初のコレラ流行に見舞われた。ついで幕末の1858~59年の大流行を経て明治維新を迎え、1877（明治10）年には、明治に入って初めての流行を見る。その後、たびたびの流行があったが、とくに1879年、1882年、1886年、1890年、1895年の大流行では、いずれも数万から10数万人の犠牲者を出した。当時の人々の脅威となった伝染病はコレラだけではなかったが、コレラは「衛生の母」とも言われ、いずれの国においても、コレラ流行への予防策は公衆衛生行政の起点となった。1897（明治 30）年の伝染病予防法の歴史的な背景には、コレラに代表される伝染病の大流行があった。さらに、コレラを含む伝染病は、地域社会の再編成を促し、とくに人口が密集し、政治的経済的な諸施設・諸機能が集中する都市の近代化の契機ともなった。本講義では、コレラのほかペスト・痘瘡（天然痘）・性感染症（とくに梅毒）・結核などに焦点をあてて、明治期の衛生行政の展開と社会の変化について考えていく。受講人数が少ない場合には、演習形式ですすめることもある。

【授業の一般目標】
病気、とくに感染症（伝染病）は、その時代の政治や社会状況を映し出す鏡であるとともに、政治や社会を変えていく力をも持っている。感染症の歴史を通して、とくに19世紀日本の政治と社会についての理解を深め、ひいては病気と政治・社会との関わりの将来のあり方について考えるための知的素材を獲得する。

【準備学習(予習･復習)】
予習復習を合わせて1週あたり150分程度の学習が必要である。日頃から病気と政治・社会との関わりを意識して、関係する出来事やニュースにも注意を払う。毎回予習について指示するので、それを消化して講義に臨むこと。さらに講義内容の復習により知識と理解の定着・深化をはかること。

【学習項目･学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	イントロダクション	鈴木	感染症の歴史から何を学びとることができるか、興亡をくりかえした諸「文明」との関連で理解する。
2	痘瘡（天然痘）の歴史(1)	鈴木	古来からの代表的な感染症である痘瘡の流行の背景、被害状況、対策、政治・社会に与えた影響を理解する。
3	痘瘡（天然痘）の歴史(2)	鈴木	江戸時代末期における日本への種痘の導入と普及、そして1980年のWHOによる世界での根絶の宣言に至る歴史を理解する。
4	梅毒の歴史	鈴木	江戸時代から近代にかけての性感染症の代表である梅毒の流行の背景、被害状況、対策、政治・社会に与えた影響を理解する。
5	パンデミックとしてのコレラの出現	鈴木	インドのエンデミック（風土病）であったコレラがパンデミック（世界的流行病）となった背景を理解する。
6	江戸時代におけるコレラの流行	鈴木	日本での最初の1822年のコレラ流行、幕末の開国後コレラ流行の背景、被害状況、対策、政治・社会に与えた影響を理解する。
7	長与専斎と衛生行政	鈴木	近代衛生行政の生みの親となった長与専斎の生涯とその業績を理解する。
8	後藤新平と衛生行政	鈴木	長与のあと衛生行政を発展させた後藤新平の生涯とその業績を理解する。
9	明治期のコレラ流行と衛生行政(1)	鈴木	明治12年（1879年）をピークとする明治期初のコレラ流行の被害状況、対策、政治・社会に与えた影響を、衛生行政の展開と関わらせて理解する。
10	明治期のコレラ流行と衛生行政(2)	鈴木	明治19年（1886年）をピークとする明治期2度目のコレラ流行の被害状況、対策、政治・社会に与えた影響を、衛生行政の展開と関わらせて理解する。
11	伝染病予防法の成立	鈴木	明治30年（1897年）に成立した伝染病予防法の内容、歴史的な意義について理解する。
12	衛生行政と都市経営(1)	鈴木	衛生行政と都市経営との関わり、さらに都市部での両者の展開過程を理解する。
13	衛生行政と都市経営(2)	鈴木	衛生行政と都市経営との関わり、さらに京都市での両者の具体的な展開過程を理解す

			る。
14	工業化と結核の流行	鈴木	工業化とともに蔓延しはじめた結核流行の背景、被害状況、対策、政治・社会に与えた影響を理解する。
15	総括・まとめ		

	(書名)	(著者・編者)	(発行所)
教科書	病が語る日本史	酒井シズ	講談社（学術文庫）

参考書　その他、講義のなかで紹介する。

【成績評価方法･基準】
定期試験を中心としつつ（90%）、課題の提出や授業の際の積極的な姿勢（10%）をふまえたうえで評価する。定期試験の際の持ち込み許可物はありません。なお、受講人数が少ない場合には、「授業形態」、「成績評価方法・基準」などに変更を加える場合もある。

【評価のフィードバック】
　講評は、合格発表日後、掲示にて公開する。